教育委員会10月定例会会議録

日 時 令和6年10月15日(火) 午後2時30分から午後3時39分まで

場 所 市役所11階北会議室

出席者

(教育委員)

教 育 長	吉 川 真由美	教育長職務代理者	奈 良 知 彦
委 員	畠 山 正 文	委 員	渡 辺 照 子
委 員	北 爪 麻衣子		

(事務局)

教 育 次 長	片 貝 伸 生	指 導 担 当 次 長	金 井 幸 光
総務課副参事	竹 内 利 昭	教 育 施 設 課 長	木 村 一 弥
文化財保護課長	神 宮 聡	学 務 管 理 課 長	後 藤 弘 史
学校教育課長	田 村 裕 之	前橋高等学校事務長	藤 井 義 嗣
前橋高等学校教頭	道 上 行 彦	生涯学習課長	佐 藤 由 美 子
教育支援課長	安 藤 尚	図 書 館 長	齋 藤 明 子

教 育 長	これより前橋市教育委員会10月定例会を開会いたします。
教 育 長	直ちに本日の会議を開きます。
教 育 長	9月定例会の会議録については、既に配付済みであります。記載事項に異議等ありませんか。
	(異 議 な し)
教 育 長	異議のないものと認め、承認いたします。
教 育 長	議事は、議事日程第1号のとおり進めます。 日程第一。会期の決定ですが、本会議の会期は、本日一日といたします。
教 育 長	日程第二。会議録署名委員の指名ですが、本日の署名委員に奈良委員と畠山委員を指名いたしますので、よろしく願いいたします。
教 育 長	日程第三。教育長提出の諸報告について、報告いたします。
教 育 長	総括的報告 3点ご報告いたします。 まず初めに学区別教育懇話会が今年度も始まりました。第6学区を皮切りに始まっています。教育懇話会は保護者の代表と学校、行政が一堂に会して情報交換や意見交換を行い、その後のPTA活動などに活かしていく非常に貴重な機会です。それぞれが置かれている立場で感じている課題、あるいは具体的に進めている取組などを共有し、目線を合わせながら、子どもたちと一緒に育んでいくためにも有意義な場だと感じています。第6学区のテーマは、非認知能力でした。非認知能力を変化の激しい現代社会の中で自分そして他者を両方尊重し、協同して一緒になって課題に立ち向かうための能力と位置付けて、家庭、学校、行政はそのために何ができるのかということを、グループに分かれて話し合いました。自己肯定感や自尊心、協調性、社会性など、キーとなる言葉をあげながら、それを高めていくためにはどうすればいいのか意見を出し合いました。社会と同じで、これという答えがないわけですが、限られた時間の中で議論するということがとても大事だと思っております。第6学区には奈良委員さんにご出席をいただきました。後ほどご感想をいただければと思います。 2点目といたしましては、前橋市学校教育充実期会議の開催についてです。前橋市学校教育充実会議が10月4日に開催されました。前橋市教育委員会では、名前の通り、学校教育を充実させるために、学校と市教委が一緒になって前橋市学校教育充実指針というものを作成し、毎年見直しを行っています。そして、現場の先生方の指針、参考になるように、改定を重ねています。前橋が目指す子ども像は、多様な人と協働しながら主体的・対話的に活動できる子どもです。この子ども像と一緒に目指しながらも、各学校では独自の学校文化も大事にしています。ですので、この指針を参考にいただきながら、各学校で、自分の学校が

目指す方向性、あるいは方向性を明確にして重点項目を設定しています。本年度これが第1回の会議となりますが、令和5年度版の指針の成果、課題、具体的にはどのように活用しているのかということと共有していただきました。次回では令和7年度版を充実させていきたいと思っております。

3点目は、教育委員の就任についてです。10月1日付けで北爪麻衣子さんが教育委員にご就任をされました。農業に従事しながら六次産業化で事業をおこされ、お米を中心とした農産物の加工販売を行っていらっしゃいます。現在小学生と中学生2人のお母さんでもあります。朝5時に起きて会社の方に行き、その日の準備をされ、そして家に戻ってから2人のお子さんの登校準備をし、また会社の方に行き仕事をされていると伺いました。こども達に田植え、稲刈り、餅つきなど体験をたくさん作っていただいております。現在も稲刈り真っ只中という超多忙なところにお越しいただいておりますけれども、お引き受けいただいたこと大変ありがたいと思っております。任期は令和8年3月31日までとなります。後ほど改めて自己紹介いただければと思っております。

その他ご報告したいことがあります。まず始めに、畠山委員にカナダのブリティッシュコロンビア州を訪問された時の学校の様子を、定例会ではありませんがご報告をいただいております。多様な子供たちの学びを、専門家と学校の先生と一緒に進めている様子をご紹介いただきました。国が違えばシステムも異なりますけれども、私たちが取り入れることができる点はたくさんあると感じた次第です。ありがとうございました。そして渡辺さんには市立の和歌山市立図書館の視察報告をいただきました。理念コンセプトが設計や運営にしっかりと落とし込まれている図書館で、利用者の居心地の良いスペースがつけられていました。渡辺委員さんの言葉をお借りすれば、入ったとたん抱かれるような感じがする図書館ということでした。私たちの新図書館にも活用できる取り組みを存分に見せていただきました。ありがとうございました。前橋まつりも終わりました。中心市街地では小学校のこどもたちが吹奏楽を演奏し、園児の皆さんが子供だんべえ踊りを元気に踊ってくれました。市立前橋高校の吹奏楽そして書道部のコラボのパフォーマンスには、沿道のたくさんの方からの拍手が送られていました。運動会、文化祭と10月11月は行事が盛りだくさんの上に、衆議院の選挙も告示となりまして、一部変更の行事などもあります。市民の皆さんのたくさん笑顔、こどもたちの笑顔が見られる秋になればと思っております。

報告1 こども施策連携の取組について

資料の報告1をご覧ください。

1の目的についてですが、こども関連施策について、組織横断的な連携を行うとともに、その連携状況を可視化することによって取組を推進するものでございます。

次に2の実施方法についてですが、施策に係る係長級職員による組織横断的な「チーム」により連携して実施するものでございます。

次に3の主なチームの例についてですが、表のチーム名「要支援家庭自立支援チーム」については、関係課として、福祉部社会福祉課以下記載のとおりでございまして、連携内容は、対象家庭に配布する食料等の調達となっております。

総務課長

また、次の「相談支援・ヤングケアラー支援チーム」については、関係課として、市民部共生社会推進課以下記載のとおりでございます、連携内容は、相談支援となっております。

また、「安全支援チーム」については、関係課を記載のとおりとし、防災・防犯の啓発等を行います。「食育推進チーム」については、関係課を記載のとおりとし、食育、地産地消の推進を行います。

このほか、関連施策に合わせた関係課によるチームで連携していくこととなります。

こども施策連携の取組については、以上でございます。

報告2 日本語指導スタートアッププログラムの事業実施について

学校教育課長

1 プログラムの趣旨をご覧ください。参考のとおり、本市における外国人住民者数・外国人児童生徒数は増加しております。そこで、本事業は、外国にルーツを持つなど日本語や日本の習慣・文化に不慣れな児童生徒が転入学等する際、当該児童生徒がスムーズに学校生活を送るために実施する事業です。これまでは、日本語巡回指導員により初期指導を全て行ってきたところですが、今後は、既存の巡回型のほかに、個々の実態に応じて、転入学前に個別に日本語等の初期指導が必要とされた児童生徒に対し、専任の初期指導員が所定の指導場所などで、日本語指導プログラムを実施することで、学校生活の円滑化を図ってまいります。

2 対象児童生徒をご覧ください。対象児童生徒は前橋市立小中学校へ転学・入学する外国人児童生徒であり、入学後、保護者と学校が話し合い、日本語初期指導の必要性があると判断した場合となります。

3 プログラム内容をご覧ください。プログラムの内容については、「レクリエーション」「日本の文化風習」「日本の学校生活」「日本語の基礎」「通学準備説明、学校への引継ぎ」となっております。(1)レクリエーションは、指導者との信頼関係を作り、安心感をもって学んでもらうための準備の時間として設定しました。(2)日本の文化風習や(3)日本の学校生活は、「日本では家に上がる際には靴を脱ぐ」など自国とは違った日本の文化風習について指導したり、日本の学校での一日の流れや学校行事や通学準備説明を詳しく説明したりします。(4)日本語の基礎は、生活言語を主に指導しますが、専任の初期指導員は教職免許を保有しておりますので、当該児童生徒の実態に応じて学習言語の指導を行うことも可能となります。

なお、指導期間については、概ね最短3日から最長2週間とし、児童生徒の適応力を見て初期指導員と学校、市教委JSP担当で検討し判断します。

4 支援場所をご覧ください。指導場所については、総合教育プラザを中心に前橋プラザ元気21、図書館、高校生学習室などの市役所周辺の市有施設を活用します。今後、こどもたちの実態に応じて、公民館や学校なども検討していきます。

5 実施体制については、専任の初期指導員及び日本語指導アシスタントを配置します。また、指導の際は必要に応じて前橋市国際交流協会から通訳・翻訳のための専門員を派遣いたします。

教 育 長

3点ご報告をさせていただきました。一つずつ質疑を伺っていきたいと思います。総括的報告について感想をお願いしたいと思いますが、奈

良委員さんに第6学区についてご参加いただきました。

奈良委員

9月27日金曜日、城南方面の小中学校の校長先生など学校の代表と、主にPTA会長さんが多かったと思いますが保護者代表と、そして市教委ということで、教育長さんはじめ市の幹部の方々と一緒に参加させていただきました。先ほど、教育長さんからありましたように、非認知能力を伸ばす取組についてということで、非常にわかりにくいですが、学力検査や知能検査などの数値で測れない人間の能力ということで、それを伸ばすにはどうするかというようなことで話し合いました。これといった答えはその場では見つからなかったんですけども、概ねやはり子ども達に経験を積ませる、成功体験、失敗体験を重ねてもらい、親があまり口出しをせずに、まず見守りながらさせてみるのが大事じゃないか、ということでした。学校においては、やはり体育祭や文化祭などの学校行事の取組、あるいは部活動での体験、また家庭の中でも何か仕事を与えて、やってもらったりやらせたりというようなことの中で、非認知能力が自然と身についてくるんじゃないか、というような話が主だったかと思います。

教育委員、校長先生、保護者が大体6、7人で、4グループに分かれて話したんですけども、立場は関係なく、本当にフランクに話し合いができていたと思います。保護者と学校、教育委員会と学校、また保護者との間が近くなったような、本当にいい雰囲気でお話しができた、すごくいい時間が持てたなというのが私の感想です。まだこれから続きますけども、また次のところ行く機会も頂けたので、楽しみにして、また参加させてもらいたいと思います。

教育長

ありがとうございます。さて、10月1日付でご就任いただきました北爪委員さん。自己紹介をお願いできればと思います。

北爪委員

改めまして、皆様こんにちは。今月から教育委員の保護者枠ということでお世話になることとなりました北爪麻衣子と申します。保護者枠ということで、小学生と中学生のこどもがおりまして、現在子育て大奮闘中でございます。私自身も前橋市の生まれで小学校、中学校、そして高校も前橋市立の学校を卒業させていただきました。親子共々この前橋市に大変お世話になっております。普段は赤城山の麓、宮城地区にて、米農家として主にもち米作りを行っております。そのもち米をおもちに加工して販売をする6次産業化を進めております。こういった教育の場面は初めてのことで大変緊張しておりますし、分からないことだらけで、皆様方には教えてもらうことばかりだと思いますけれども、保護者として農業者として、できる限り頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

教育長

ぜひ北爪委員さんには色々なご意見を出していただければありがたいと思っています。よろしくお願いいたします。

では、続いて報告1のこども施策連携の取組について、ご意見ご感想、あるいはご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

もともと横を見ながら、教育委員会としても色々繋ぎあってきてはありましたけれども、改めてこのようにチームとして一緒になって考えら

れるというのは、有力だなと思っております。これから始まりますけれども、その時々報告などもさせていただけたらと思っています。

特に無いようであれば次に参ります。報告2の日本語指導スタートアッププログラムの事業実施について質疑などありますか。

北 爪 委 員

資料に外国人児童という記載があるんですけども、私も身の回りでも日本人の夫婦が海外でお子さんを出産して、お子さんが小さい時に引越しをして、そしていざ小学生になって帰ってくるという時に、日本人なんだけれども日本の学校に適応できるのか、というのをすごく心配されている日本人の親御さんもたくさんいらっしゃいます。お子さんは日本語は話せるけれども、読み書きができないことを大変心配されていたので、そういった日本人のこどもたちもこういったことの対象として見ていただけるのでしょうか。

学校教育課長

参考として資料に外国人住民者数が出ていますが、令和6年9月の時点で1万人を超えました。外国人児童生徒については259人で、増加傾向にあります。群馬県で言うと、伊勢崎市や大泉町に比べればまだ前橋市はそれほどでもないですが、それでも増加傾向であるということは事実となっております。そんな中で、これまで前橋市としては10人の日本語指導員を、対象とする児童がいる学校に配置して、週1日、1時間から2時間程度、巡回型日本語指導を行ってまいりました。ところが、この人数からも分かるように、多くのこどもたちが来る、それから全く日本語ができない、あるいは家族共々日本にまだ適応できてないということに対しては、集中的に3日間あるいは2週間程度預かって、こどもや保護者に対して、日本というのはこういう国ですということを伝えてあげよう、ということで始まったのがこのスタートアッププログラムです。ですので、先ほどおっしゃった、海外で住んでいて、日本という文化を全く分からずということで、その子については学校でも指導しているけれども、集中的にプログラムを組んで支援する必要があると判断された場合については、フォローできる状態になっております。それぞれ習得状況が違いますので、その子の状況を見て、あるいは保護者の状況を見てという形になると思います。

プログラムの例についてはチラシにもありますが、海外では蛇口をひねって水が飲めるというわけではありませんが、日本では安全な水が飲めるという環境であったり、安全性であったり、日本は他の国とは全く違うということの理解が進むような取組をする3日間になると思います。それぞれの状況を見て対応していきたいと思います。

教 育 長

保護者の国籍に関係なく、学校に適応しづらいと思われるような子は対象というふうに考えてよろしいでしょうか。

学校教育課長

はい。

渡 辺 委 員

プログラム内容に(1)レクリエーションというのがあって、それをする目的が指導者との信頼関係という説明を聞いて非常に安心したところです。もう30年弱前なのですが、私自身が伊勢崎市において外国人児童生徒の取り出し授業というもので、国語の授業という名目で外国人

のこどもたちだけが集まってくる時間というのを担当したのですが、国語なんて全然できなくて、喧嘩とかが始まります。そういうことを考えると、やはり日本にきてかなりのストレスの中で時間を過ごしていると思うので、インプットがトゥマッチになると苦しくなってしまうかもしれないというふうにも思います。ですから指導してくださる方との信頼関係であったり、心の受け止めみたいなものを意図した形で、こういう時間を作っていたら良いのではないかと思います。

学校教育課長

ありがとうございます。こどもにとっても大人にとっても違う国で過ごすというのは、非常にストレスが溜まるものだと思います。ぜひそういったものを取り入れていきたいと思っています。チラシの裏にもあるのですが、場所を今は4か所作っています。ただ、日本に来た外国の方は車の免許を持っているとは限らない。それからバスなどそういったものを使えるかどうか分からない。ということ考えた時に、その子の住んでいる環境からできるだけ通えるような場所がないかということで、今、候補として4か所挙がっているという形です。保護者も含めこどもたちがストレスを感じないような形で進められたと考えております。

畠山委員

この取組はとっても大事な取組だと改めて感じました。やはり特に日本の暮らしというのをどれだけ早く分かってもらうかという事の大切さをすごく感じるところです。

外国人の方がカウンセリングに来られることも多いです。割とこどもは周りのこどもたちや学校、教育のシステムに慣れてくる場合が多いのですが、一方で、保護者が、場合によっては本当に一人だけ孤立して、職場でもほとんどコミュニケーションをせずに家のこどもとの関わりだけで、家では母国語で話しているようなご家族も結構何人も担当したことがあります。そういう家庭の状況があると、小学生ぐらいの間はまだ大丈夫なのですが、中学生ぐらいになるとだんだん色々な問題がこどもの方に表れてきたりすることがあります。なので、保護者もどういふうにこの日本の文化の中に仲間入りをしてもらえるのかというような取組もまた大事だと思います。

資料に、保護者に対する情報提供ということも書かれていますけれども、先ほど教育長からバンクーバーの話が出たので少し紹介します。バンクーバーにはコミュニティスクールというのが色々なところにあるのですが、外国人について、そのコミュニティスクールがまず受け皿になっています。そこで色々なお祭り、フェスを開催して、そこに大人もこどもも参加していいという雰囲気が作られています。楽しいです。参加したら色々な人が来ていますし、楽しくみんなでわいわいしながら、飲み食いをして、話をしながら過ごします。プログラムとしてカチッとしたものではなく、参加したら楽しいことがある、というような雰囲気でもウェルカムという感じになっています。そういう場があると外国人の保護者もこどもも随分とその後の孤立感というのは防げるのではないかと思います。より良くしていく1つの意見として聞いていただけたらと思います。

学校教育課長

我々もこれを作る時に話し合ったのは、やはり保護者のことです。保

護者が安心しないと、こどもが学校で遊んで家に帰ってもやはりキリキリしてしまうと思います。この場所にこどもを連れて来てくれたときに、保護者がすぐに帰ってしまうのではなく、保護者も一緒にというのも考慮しながらやっていくことを検討していきたいと思います。

教 育 長

前橋市は大泉町、太田市、伊勢崎市に次ぐ外国人が多い市町村になっていますし、これからの少子高齢化の時代の中で、誰が産業を支えていくのかとなりますと、やはり外国の方の力を借りていくという事も大変大事なことだと思っています。こどもたちがどこの国籍であれ、やはり学び続ける権利というのはあると思っていて、縁あって来てくれるこどもたちにも前橋で学び続けて欲しいと思います。時にお話を聞くと、やはり親の通訳代わりになって学校を休まざるを得なくなるようなこどもたちもいます。そういうこどもが学校にしっかりと行ける、しっかりと遊べる環境を作っていければと思っています。先ほど報告をさせていただきましたこども施策連携のチームですが、その中でも横のつながりを大事にして、一人のこども、1つの家庭を、地域でしっかりと見ていけたら良いと思います。教育委員会ももちろんしっかりと取り組んでいきますが、私たちだけでは充分ではない部分は、横と連携しながら、色々な部と課と連携して進めていけたら良いと考えています。
ほかになれば、以上で質疑を終わります。

教 育 長

日程第四。教育長提出の議案を上程いたします。
最初に、議事の公開の是非についてお諮りいたします。
教育長提出の議案第24号については、市議会提出予定議案に関わることから現時点では意思決定過程にあると認められるため、議事を非公開とすることが適当であると思われれます。
したがって、議案第24号については、前橋市教育委員会会議規則第20条第1項の規定に基づき、議事を非公開とすることに、異議等ありませんか。

(異 議 な し)

教 育 長

異議のないものと認めます。
よって、議案第24号については、議事を非公開とし、議事日程の最後に議題といたします。

教 育 長

日程第五。その他について報告事項がございます。説明をお願いいたします。

総 務 課 長

その他 1 行事について
教育委員会の11月定例会でございますけれども、14日木曜日午後2時30分から、総合教育プラザ63会議室において開催予定です。(ほか、資料の主だった予定を紹介)
教育委員会の12月定例会につきましては、16日月曜日午後2時30分から、総合教育プラザ63会議室で開催予定です。(ほか、資料の主だった予定を紹介)
以上、11月、12月の行事予定です。

文化財保護課長

その他2 「新出土文化財展2024」の開催について

資料の7ページをご覧ください。

文化財保護課では、毎年市内各所において埋蔵文化財の発掘調査を実施しており、昨年度も数多くの遺構や遺物が出土しました。昨年度の発掘調査成果を広く市民に知っていただき、文化財に対する興味・関心・理解を深めていただくため、「新出土文化財展2024」を開催いたします。

まず、1の開催日時についてですが、令和6年10月29日(火)から令和6年11月10日(日)まで、開館時間は、午前9時から午後5時となります。なお、11月5日(火)は休館となります。

次に2の会場ですが、臨江閣別館1階の西洋間になります。

3の入場料につきましては、無料となります。

4の内容につきましては、令和5年度に市内各所で実施した発掘調査成果の展示になります。

主な展示遺跡と展示遺物については、8ページの開催チラシをご覧ください。

写真にありますように、上野国府跡や元総社蒼海遺跡群をはじめとする各遺跡より発掘された古墳時代から中世にかけての土器や瓦などの展示を行います。

他に、10月16日から東京国立博物館特別展「はにわ」へ当市より出展する3つの埴輪のレプリカを展示し、PRを行いたいと考えています。

説明は以上でございます。

その他3 「粕川歴史民俗資料館令和6年度秋期企画展」の開催について

文化財保護課長

資料の9ページをご覧ください。

粕川歴史民俗資料館では、毎年、春と秋の年2回、企画展を開催しており、考古学ファンをはじめ多くの来場者から好評を得ております。

今回の企画展では、「赤城なるもの—赤城山南麓はどこまでか—」をテーマとして開催いたします。

まず、1の開催日時ですが、令和6年10月26日土曜日から令和7年2月24日月曜日まで、開館時間は、午前10時から午後4時までとなります。

なお、月曜日及び火曜日は祝日の場合を除き休館となります。

次に2の会場ですが、資料館の第1展示室になります。

3の入場料につきましては、無料となります。

4の内容ですが、赤城山南麓とは何なのかを地質や地形、遺跡や遺物、石造物や建築物等から考えるものです。

主な展示資料は、赤城山南麓の遺跡から出土した旧石器時代から中世にかけての遺物などになります。

なお、会期中に関連講座として、計4回の講演会を予定しております。

5の開催チラシは、10ページのとおりです。

報告は、以上でございます。

その他4 まえばし学校フェスタ2024の開催について

学務管理課長	<p>資料1 1ページをご覧ください。</p> <p>1の趣旨についてですが、本フェスタは、各学校・園の日頃の教育活動の成果を発表し、学校文化を広く市民に知っていただくことを目的として開催しており、今回で13回目となります。</p> <p>3の共催についてですが、本フェスタは、市内6つのロータリークラブとの共催により開催しております。前日の会場設営・作品展示等の準備から、当日の運営、終了後の撤収作業まで、教育委員会事務局とロータリークラブの多くの方々が、3日間にわたってスタッフとして活動し、運営しております。</p> <p>開催日時、会場、内容等については、資料に記載のとおりとなります。</p> <p>昨年度は入場制限なく実施することができ、2日間の来場者数は、延べ7,397人で過去最多となりました。</p> <p>今年度も、市のホームページやSNS等を活用した広報活動を行い、より多くの子供たちや保護者、市民のみなさんに前橋の学校文化を知っていただく機会にしたいと考えております。</p> <p>説明は以上となります。</p>
教 育 長	<p>総務課からの行事予定で、次回の定例会についてですが、11月14日（木）午後2時30分ということによろしいでしょうか。</p> <p>（ 異 議 な し ）</p>
教 育 長	<p>では、11月の定例会については、確認させていただきましたとおり決定します。</p> <p>また、12月定例会については12月16日（月）午後2時30分から予定することで、よろしいでしょうか。</p> <p>（ 異 議 な し ）</p>
教 育 長	<p>では、12月の定例会については、確認させていただきましたとおりお願いいたします。</p> <p>ほかに、ただ今の報告について質疑等ありますか。</p>
渡 辺 委 員	<p>新出土文化財展2024についてですが、臨江閣を会場として行われるのはとても良いと思いました。臨江閣という場所自体が、皆さんに魅力を感じて欲しい場所であるからこそ、展覧会を見るだけでではない目的も価値があるのではないかと思います。質問なのですが、すごく貴重な品物を移動するという事はリスクも伴うのではないかと思いますので、運搬等はどのようにしているのでしょうか。</p>
文化財保護課長	<p>通常、博物館などで展示をしたりする場合、博物館の方から学芸員さんが来て、日通さんなど、美術品専用の運搬車で運んでそのまま展示までしてもらおうというのがよくあるパターンです。しかし前橋市で通常行う展覧会については我々職員が、綿で作った布団で梱包して、会場まで持っていく、展示するような形を取らせていただいております。</p>
渡 辺 委 員	<p>そのような緊張する手立てを取ってでも広く皆さんに公開して見てい</p>

ただくということで、ますます多くの方に来ていただければ良いと思っていますし、自分も行ってみたいと思います。

畠山委員 その他3の粕川歴史民俗資料館令和6年度秋期企画展ですが、「赤城山南麓はどこまでか」というこの問いがどういう意味合いがあるのでしょうか。赤城山南麓がどういう意味合いで、そうではないとどうなのか。

教育長 私も気になります。

文化財保護課長 企画した者が一生懸命考えてこのような題名つけたのですが、なかなか難しい問題です。例えば、この関連講座がありますが、最初に地形地質から考えるというところで話をすれば、地形的には市立前橋の西久保線の通りからぐんと下に土地が落ちると思います。前橋の街の中で言えば、国道50号から北に行くと、あの馬場川のところで落ちると思います。そこが広瀬川低地帯と言われており、広瀬川低地帯の北側が地形的には私は赤城南麓だと思っています。それと、他に建物ですと、赤城型民家と言って養蚕の民家がありますが、そういうものが基本赤城南麓に発生してくるのですけれども、それをもって赤城南麓にするとか、色々な意見があると思いますので、ぜひこの講座を聞いてもらって確認していただければと思います。

畠山委員 ますます興味が湧いてきました。やはりそういう境界がどこなのかというのが、すごく地質学的にも重要なのだと思います。私はよくカウンセリングの中で絵を書いてもらうことが多く、風景構成法というやり方ですが、それをしてもらおうと境界をどこに引くのかということによって、その人が何を大事にしようとしているのか、何をどうでもいいと思っているのかというのが、割とすごくはっきりしてきます。きっとこの赤城山の自然環境がその境界を作ると思うのですが、それでも人の暮らしはそれを超えて文化が伝搬したりして、こっち側に同じようなものが出土したりすることがあるのだと思います。そういうのもきっと何か境界をめぐって人々の心がさまざまに動いているというような証拠だと思って、個人的にそこに関心があるので、是非行ってみたいと思いました。

文化財保護課長 委員さんが言われるように、明確に線が引けるものではないと思います。文化は伝播していくものなのでその辺も含みながら是非、展覧会の方見ていただければと思います。よろしくお願いします。

奈良委員 昨日、新聞に県内で教員が24名不足しているという記事が載っていて、少し驚いていると同時にそういうときが来たかという、両方の考えを持ちました。色々な要素があって先生方が不足している状況を、現場の校長先生からも聞いています。今後さらにこういう状態が増えていくのではないということも勝手に予想しています。教員をただ増やして質を下げるわけにはいかないし、教員志望の大学卒業生に教員の素晴らしさややりがいなどをできるだけアピールして、教員を目指す若者を増やしていかなければならないだろうし、またそういう人たちが、夢を持って職に就いたら「やはり教員になれて良かった」という充実感ややりがいなどにつなげていくことも大事だと思います。

ユーチューブのある動画で、28歳の教員が、「初めて3年生を送り出して卒業させた時に涙が出てきた。仕事でこんな涙が流せるとは思わなかった」と言うようなことが流れて私は感動しました。こういう若者たちを私たちは作っていかなければならないと思いました。

また、これから働き方改革もあったりする中で、男性の教員も育休を取ってもらいたいと思います。安心して取ってもらえるような環境も作っていかなければならないというところで、制度上では取れるようになったけれども、まだまだ現実とすると、代わりがないから働かなくてはならないというようなことがあってはならないと感じます。そういうことも含めて、学校現場の校長先生方はやはり自分の学校で先生が不足した、それも教科によってはなかなか代わりの先生が見つからないということも聞きます。また定年延長、再雇用、再任用ということで、今までは定年になって自分の時間ができた方たちをお願いしていたのが、これからは見込めない状態かと思います。どうしたらいいか私には答えが見つからないですけども、これはやはり真剣に考えていかなければならない問題ではないかなと思います。そこで市の事務局には是非、県全体、また日本全体の問題として捉えていただきながら、学校現場の校長先生や先生方と連絡を密にして、翌年度、2年後を考えた人事配置などをするのも必要ではないかと、そういうことを含めて少し検討してもらいたいと思います。

また学校の統廃合もこれからいろいろ出てくると思いますが、小規模校が複数あるとすごくロスがあります。1つの学校であったら主事が一人で済みますが、小さい学校2つだと2人必要になったり、先生方一人一人の仕事量も増えます。マクロに見ながら細部を見るというふうな見方で、まずは現場の混乱を少なくすることが重要です。児童生徒にとっても、やはり先生方が落ち着いて教壇に立ってくれるというのが一番落ち着くと思います。お願いという形でこのような話をさせていただきましたが、大きな問題だと思います。担当課長さんは悩みに悩んでいらっしゃると思いますが、是非皆で教育現場を何とかして行こうという機運を高めて行ってもらいたいと思っています。

学務管理課長

これは本当に群馬県だけではなくて、市町村と連携し、国全体で考えていかなければならない問題だと私も思っております。

現在の本市の状況を見ますと、やはりどうしても年度途中の病気休暇や産前産後の休暇、それに対しての補助者を任用するのに少し困難な状況があるのは事実です。学校現場には迷惑をかけているところもあるのですが、市教育委員会としましても現在登録している方に繰り返し電話連絡をしたり、あるいは管理職の先生も含めて退職した先生方にも繰り返し連絡をしたり、そういうふうな取り組みをしております。ただ、やはりそれだけでは賄えない部分がありますので、先ほどおっしゃったように、県や、周辺の市町村、あとは育成する大学等とも連携をとりながら、この問題に取り組んでまいりたいと思います。

また、教員の大変さだけではなく、魅力についても発信することが大切かと思っておりますので、各学校で教育実習を受け入れておりますので、そのようなところで学生が「教員は素晴らしいな」と魅力を感じられるような取り組みもしてまいりたいと考えています。ありがとうございます。

指導担当次長	<p>学務管理課長が言った通りで、色々な角度から行っていくことが必要だと思います。本当に喫緊のところでも、色々な具体的な取組をしていますが、やはり今一番必要なのは、教員が魅力のある仕事で、そしてなりたいたいと思う若者が増えていくこと、これが一番重要なことだと思います。前橋市だけでなく群馬県ひいては日本の大きな問題であり、これからの教育を担っていく上で非常に重要な視点だと思います。</p> <p>そのため、学校の先生は、今ブラックという言葉で言われてしましますが、そうではなくて、大変だけでも本当にやりがいのある仕事ということを発信して、先生になった後もしっかりとフォローして、教職員研修をしっかり行って、学校の中での先生方のサポートなどでやりがいを本当に感じられるような体制づくりをしていきたいと思っています。</p>
教 育 長	<p>先を見通した人事配置のためには、採用を担ってくださっている県に対しては私たちもしっかりと要望を伝えたいと思います。またその一方で、魅力ある職業として教職がしっかりとアピールできるためには、先生方の抱え込みすぎている状況も市教委で何とかできないかというふうに思います。教職というのは、色々なことを経験できて、一人の人間というものを育てていく、とても魅力的な仕事だと思いますから、教職に携わりながらその人本人も成長していけるものだと思います。ただ抱え込み過ぎると魅力に気づかないこともある。その点では畠山委員の勉強会などに参加をさせていただいて思うのですが、専門家の力を借りるということもとても大事なことで、心理の専門家あるいは社会福祉の専門家の力を借りて過程を見ていくということも大事だと思います。市教委でできることもまだまだあるのではないかと思います。現場での要望を伝えるとともに私たちも取り組みを考えていきたいと思っています。</p>
畠 山 委 員	<p>切実に学校の先生方の大変さというのをよく聞きます。特に最近よく聞くのは、やる気のある人にどんどん重たい分掌が集まるので、最初はやる気があったのですが次第に疲れて元気がなくなっている先生方が結構います。ベテランで割とうまく立ち回るような先生は軽いところをスマートにやってしまう。働き方改革の話があったと思いますが、結局時間の制限しかなく、質的なものを何もコントロールしていないので、先ほどの専門家の話もそうですけど、質的なところをコントロールしない限りこの傾向は止まらないと思います。この分掌システムのところはどうかかならないのだろうかというのを非常に私は感じています。</p>
前橋高等学校校長	<p>本校でも、実は昨年度の後半から今年の1学期までは、育休を取る男性が多く出たり、病休の教員がいたり、本当に遣り繰りが大変でした。市当局にお願いして何とかして2学期から補充の先生が来てくれて今は解消しているのですが、特に1学期は4名の先生が産育休を取ってしまして、特に同じ教科の国語が集中してしまいました。そうすると従来行っていた習熟度別の授業ができなくなり、それを一回解体して時間割を作り直したりとか、生徒には当然不利益になります。</p> <p>それと合わせて、その穴を補充できないと必ず現場の先生がカバーしないといけない。やらない先生がいれば、自分の持ち時間があるのにもかかわらず持つ先生がいる。若い先生が校長室に、何とかしてくださいと言いにくることもあります。なんとか私の方でなだめながらお願いし</p>

ているような感じで、今は解消されているので文句は出ていませんが、そのあたりは現場としては喫緊の課題ではないかと思います。

ただ、先生がやる気をなくされても困るので、違った意味で人事評価をしていくのが重要なのかと思っています。ありがたいの一言で済ませてしまうのではなく、人事評価にうまくつなぎながら、自分の仕事以外のところの評価というところもありますので、そのようなところで評価をしながら、先生方のモチベーションを下げないというような取り組みをしている最中でございます。また、いろいろ工夫する点あると思うのでまたご意見を頂ければと思います。

教 育 長

やはり世界の中でも日本の教育制度っていうのはものすごく尊敬されているところもあり、あれだけの社会を発展させたのは日本の教育というものがあつたからだ、というふうに言われていますので、誇りを持つ一方で、人不足に悩んでいるのは教育現場だけではない状況になっています。人口減少社会の中で、例えば建設現場そして運輸業界、飲食業界、全て人手不足に悩んでいます。農業もそうかもしれません。そのような人口減少社会の中で教育を支える人たちと今後どうしていくのか、人で補うということは、もしかしたらこれ以上難しくなってくる状況も出てくるかもしれない。今、やる気とかやりがいによって支えられている教育の現場ですけれども、もう一段何かできる手はないのかというのを考えていかないと、日本のすべての業界でそうですが、先が見えてこないという印象を持っています。非常に大切なテーマであるので、委員の皆さん、市教委の皆さんと一緒に考えていければいいと思っています。皆さんありがとうございました。

教 育 長

なければ、以上で質疑を終わります。

教 育 長

次に、先ほど非公開と決定されました議案について、議事を行います。傍聴人の方をお願いいたします。ここからの議事は非公開といたしますので、退場されますようお願いいたします。

(傍 聴 人 退 場)

文化財保護課長

【非公開議案】

議案第24号 令和6年第4回定例市議会提出予定議案（事件）の作成に対する意見について

教 育 長

以上をもちまして教育委員会10月定例会を閉会いたします。

(午後3時39分)